



平成27年12月22日

各 位

上場会社名 日本精蠟株式会社
 代表者 代表取締役社長 井上 寛
 (コード番号 5010)
 問合せ先責任者 取締役 専務執行役員総務部長 細田 八朗
 (TEL 03-3538-3061)

平成27年12月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成27年2月13日に公表いたしました平成27年12月期通期業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成27年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	28,500	420	330	210	11.72
今回修正予想(B)	29,300	△630	△720	△540	△30.14
増減額(B-A)	800	△1,050	△1,050	△750	
増減率(%)	2.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成26年12月期)	—	—	—	—	—

(注)平成27年12月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年12月期の数値は記載しておりません。

修正の理由

(1) 平成27年12月期通期業績予想について

原油価格は年初の80ドル/バレル台から一貫して下落し、5月には米国WTI原油が60ドル/バレル前後、東南アジア産原油が60ドル/バレル半ばまで反発の兆しを見せたものの、その後は再び世界経済の減速懸念を背景にWTI原油は30ドル/バレル半ば、東南アジア産原油も30ドル/バレル後半まで下落しました。斯様な状況下、重油販売では原油価格に連動して販売単価が下落したことにより採算が大幅に悪化し、また原価面では原料油の高値在庫による原価高と棚卸資産評価損を計上したことにより、第3四半期連結累計期間(1月～9月)は、大幅な損失計上を余儀なくされました。

業績悪化の中、ワックスの効率的生産と固定費の更なる削減を柱とする総合的な収益・収支改善策に鋭意取り組み、第4四半期連結会計期間(10月～12月)は、営業利益、経常利益および純利益で黒字を計上できる見込みとなりました。しかしながら高値在庫による重油の採算悪化と棚卸資産評価損を主因とする第3四半期連結累計期間(1月～9月)の損失を解消するには至らないことが見込まれます。

原油価格の大幅な下落に伴う重油の採算悪化と期末棚卸資産評価損の売上原価計上等から通期業績予想を修正するものであります。

(2) 配当予想について

前回公表の期末配当予想の1株につき5円につきましては、現時点では変更の予定はありません。

* 上記の通期業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の原油価格、為替相場および重油市場の動向等さまざまな要因によって大きく異なる場合があります。

以上